

「水田の20ヘクタールは畑の50ヘクタールと同じ」。趣味のスノーボード仲間でもある美瑛町内の畑作農家の友達がこんな感想を話したそうです。「畑の30ヘクタールはたいしたことないっていうんだ。だから将来的には規模拡大していききたい」と経営拡大への意欲いっぱい。

2年前、父直敏さん(46)の後を継いで就農しました。「昔から農家しか見ていないし、父さんの手伝いもちょくちょくしていたので、仕事として普通に選んだ」と、農を職として選択することとためらいはなかったそうです。

昨年は田起こし、防除などオペレーター作業のほとんどを任せてもらい、2年間の経験を経て、苗づくりから収穫までの水田管理、ハウス野菜の生産管理も任される年になりそうです。これからは経営感覚も本格的に試される時期です。



8区の篠原猛志さん(43)、30区の馬場翔大さん(22)と3人チームで町内13カ所約200ヘクタールを引き受けている融雪剤散布代行作業も終え、イネの種もみのは種作業に向けて準備は順調。

今年、もう一つ父から大切な仕事を任せられました。それは、7南区の山中仁志さん(69)が中心になって毎年行っている1日限定スノーモービルランドのボランティア参加。

東川養護学校の子供たちに冬を楽しんでもらおう、と雪に覆われた山中さんの水田を利用してスノーモービルを走らせ、子供たちに思う存分楽しんでもらおう、という企画。父直敏さん、篠原さん、そして北町3丁目の森本大記さん(43) 4人の仲間が毎年続けてき



篠原さん、馬場さん(左から)と3人チームで融雪剤散布作業を順調に終わりました

今年、もう一つ父から大切な仕事を任せられました。それは、7南区の山中仁志さん(69)が中心になって毎年行っている1日限定スノーモービルランドのボランティア参加。

東川養護学校の子供たちに冬を楽しんでもらおう、と雪に覆われた山中さんの水田を利用してスノーモービルを走らせ、子供たちに思う存分楽しんでもらおう、という企画。父直敏さん、篠原さん、そして北町3丁目の森本大記さん(43) 4人の仲間が毎年続けてき



**梶畑 宏弥さん(23) 東雲**

道立旭川農業高校を経て道立農業大学校(十勝管内本別町)の稲作経営専攻コース卒業(2カ年)。拓殖大学短期大学(深川)で2年間研修し、水田農業経営の基礎を学びました。就農3年目、水田を中核に、畑では露地長ネギ、ハウス栽培のホウレン草を生産する約18畝の中核水田農家の後継者。

「父さんたちがずっとやってきたことは知っていたけれど、今までどんなことをしていたのかわらなかつた」。歓声をあげて喜ぶ子供たちの姿に、いつぱいの充実感を感じたようです。

「父さんたちがずっとやってきたことは知っていたけれど、今までどんなことをしていたのかわらなかつた」。歓声をあげて喜ぶ子供たちの姿に、いつぱいの充実感を感じたようです。



養護学校の子供たちを乗せてスノーモービルを運転(今年2月、山中さんのほ場で)

今、生き生きと **農業 梶畑 宏弥** (かじはた ひろや) さん

「今年は自分のやりたいことを見つけれられる年になりたい。まだこれをやりたい、というものはないけれど、使っていないかったハウスを利用して何か考えてみたい」。就農3年目、今は東川町農協青年部(約40人)の最年少組合員ですが、今年も新規就農の後輩が新たな仲間に加わってくるので、先輩の一人として、やりがいのある農業の形を模索し始めています。